

20 十七条の憲法—聖徳太子

麗澤中学・高等学校教諭

1 主 題 遵法、権利と義務、社会の秩序と規律 <4-(1)>

2 本時の指導

(1) ねらい 法やきまりの意義を理解し、遵守するとともに、自他の権利を重んじ義理を確実に果たして、社会の秩序と規律を高めるようにする。

(2) 展 開

	学習活動と主な発問・期待する反応	教師の支援
A 価 値 の 追 求 ・ 把 握	1 聖徳太子についてどんなことを知っていますか。	・エピソードを紹介したり、法隆寺などの資料を提示し、太子の人物像を浮かび上がらせる。
	2 資料を読む。(p.147-4行目まで)	・太子の生きた時代背景を押えさせる。
	3 太子の生まれた時代、日本はどのような様子だったのでしょうか。 ◇仏教を崇拝する蘇我氏と、排仏を唱える物部氏が対立し争っていた。 ◇蘇我氏により天皇が殺害されるなど、社会は混沌としていた。	・太子の系図を見せ、蘇我氏とのつながりがあることにも気付かせる。 ・太子の生きた時代と現在とを比較対照してもよい。 ・なぜ十七条の憲法を制定しなければならなかったのかを理解させる。
	4 生徒に第一条の原文を読ませる。	・生徒に原文を読ませることで語感から太子の思いに触れさせる。 ・生徒に原文を読ませたのち、教師の範読と簡単な解説をつける。
	5 なぜ第一条に「和こそが貴い」という内容をもってきたのでしょうか。 ◇世の中の人々が自分や仲間のことだけを考え、全体のことを考えないから争いがおきる。 ◇人々がみんな仲良くできれば争いは起きないということを一番伝えたかった。	
	6 生徒に第六条の原文を読ませる。	
	7 第六条で最も主張したいことはなんですか。 ◇昔から悪いことは懲らしめ、良いことは勧めるという良いしきたりがあった。これが無いと、世の中が乱れてしまう。	・「勸善懲惡」という現在でも使われている四字熟語を引用する。

	8 生徒に第九条の原文を読ませる。	
	9 「信」とはどのようなものでしょうか。 ◇まごころ、信じること、至誠心。	・「まごころ」というものをわかりやすい例を挙げてイメージさせる。
	10 生徒に第十五条の原文を読ませる。	
	11 第十五条で最も主張したいことはなんですか。 ◇行動するには私心を捨て、公に尽くす心でなくてはならない。	・今現在起きている諸問題(政治や企業等での)を例に挙げて「私」と「公」をイメージさせる。
	12 生徒に第十七条の原文を読ませる。	
	13 第十七条で最も主張したいことはなんですか。 ◇大事なことは広く意見を求め、十分議論すること。	
B 内 面 的 自 覚	14 コラム「十七条の憲法<要旨>」を読む。	
	15 改めて十七条を全て読んでみて、人や社会がより良いものとなるにはどのような事柄が必要だと感じますか。 ◇法や決まりを守ること。 ◇私心を捨て、公のために尽くすこと。 ◇悪事をせず、正しき事を行うこと。 ◇周囲のことを思いやり、仲良く協力すること。	・今回学んだことを活かしながら、生徒一人一人にワークシートを配り、「これから常に心がけること」と題して、自分の決意を書かせる。時間があれば数人に発表させる。
終 末	16 教師自身の体験・感想を話し、余韻をもって授業を終わらせる。	・教師の話聞きながら、現在の社会や家庭・自分自身を振り返り、自問や内省を深めさせたい。